

【第4期中期目標・中期計画】グローバル関係抜粋

中期目標	【5】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携したオンラインの活用を含めた国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材を養成する。	
	中期計画	【5-1】国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を目指して、必要となる協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定等によって、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流及びダブルディグリー・プログラム等で実現するグローバルな教育制度、海外活動における危機管理教育等の異文化での学習を支援する体制、並びに経済的支援等の制度を整備する。
	評価指標	①グローバルな教育制度や異文化での学習を支援する体制・制度に必要な協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定によって実施した事業数(第4期中期目標期間中の合計)
	水準	①10件以上
	設定理由	①「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習(COIL)強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を、「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等を適切に締結・改定・策定することにより、世界的に拡大する海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充が実現できるため、それらを適用して実施した事業数を計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	①1)「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、2)「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習(COIL)強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を想定し、3)「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定を適切に実施することにより、成果として、海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を想定している。
	中期計画	【5-2】地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材の養成を目指して、地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、外国語教育、外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ等を推進し、海外派遣・受入にオンラインの活用を含めた新たな双方向学生交流を促進する。
	評価指標	①各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況
	水準	①成果を全学的にまとめた自己評価書を毎年度公表するとともに、評価結果に基づく取組改善策を実施する

	設定理由	①現在、これらの国際的な教育等について、全学的に情報をまとめる仕組みが存在しないため、この仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施することで、新たな双方向学生交流の促進状況、及び地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成等についての情報提供・検証等が行えるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	①「1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」、「2)外国語教育」、「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」について成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。成果として、PDCAサイクルで情報提供・検証を行うことで、新たな双方向学生交流を促進し、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成に寄与することを想定している。
	評価指標	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用して国際的な教育を実施した授業科目数(第4期中期目標期間中毎年度)
	水準	②大学全体で年間20科目以上
	設定理由	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講することで、国際的な教育が推進できるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講する。成果として、国際的な教育の推進を想定している。